

バイオ製剤、自己注射など、より身近な最新治療を

登録リウマチケア看護師のおふたりに伺いました。

Live with a smile



リウマチと上手に付き合うために。



現場の声

「こんなことが
できるようになった！」
そんな話を聞くと
私もうれしく
なります。

はしもとじん クリニック

登録リウマチ看護師
師長
奥田理恵さん

はしもとじんクリニックが開院した当初から師長として当クリニックの最前線で活躍。「人が好きで人と関わる仕事が好きだった」と奥田さん。はつらつと弾けるような笑顔が印象的。

自分の生活スタイルを 守りながら治療できる 「自己注射」という選択。

ついにお年寄りの病気と思われがちなリウマチ。でも実際は20歳〜30歳代の発症率も高く、特に患者の約9割が女性という意外な事実。今回は新しい治療法を医療の最前線で活躍するふたりのベテラン看護師に分かりやすくレクチャーしていただきました。

奥田 ここ数年、治療法が飛躍的に進化しているリウマチですが特に注目されている治療の選択肢に「自己注射」があります。名前の通り、患者さんやご家族によつて行われる注射のことで、患者さんに適したバイオ製剤を七種類の中から選んで投与しています。

西村 やはり頻繁に通院する必要がなくなるので自分の生活スタイルが守れる点でしょうか。特に仕事をされている方、子育てや家事をされている方など、少しでも時間の制約を受けたくない方は、精神的にも余裕が生まれます。「今までの生活パターンを変えずに治療できる！」と導入した患者さんも喜ばれています。

今回、ご協力いただいた病院は…



はしもとじんクリニック
☎084-939-5552

2011年4月開院。慢性腎不全患者への人工透析（腹膜透析・血液透析）や腎炎・尿蛋白など、腎臓に関わる病気の診断・治療を中心にこなしている。また、その他にもリウマチ・膠原病、内科、アレルギー科、甲状腺疾患の診療も実施。アットホームで“スマイルの多いクリニック”を目指してすべてのスタッフが今日も明るい笑顔で奮闘中。

院長：橋本 昌美
広島県福山市松永町3-7-39-3
http://www.hashi-cl.com/

はしもとじんクリニック



川崎医科大学 附属病院

登録リウマチ看護師
外来看護副師長
西村瑞穂さん

「母親と姉が看護師だったので自然にこの道へ進みました」と笑顔で答える西村さん。本当は「映画監督になりたかった！」と衝撃の告白に周りも和む(笑)。包み込むような微笑みが素敵でした。

さまざまな視点から 支えてくれる 登録リウマチケア看護師。

では実際に自己注射を導入する際は、どんな手順で進みますか？
西村 まずは医師から自己注射の適用が妥当と判断された患者さんに十分な説明が行われます。その後、自己注射の手順や注意点をまとめた冊子・DVDなどのスターターキットを使って、看護師と一緒にトレーニングをします。きちんと自分ができるようになるまで、ていねいに指導しますから、ご安心ください。

西村さんと奥田さんはおふたりともに「登録リウマチケア看護師」の資格を持つベテラン看護師。登録リウマチケア看護師は、2010年度より資格制度が発足。バイオ製剤による治療など、リウマチ性疾患の治療環境が大きく進化した今、専門職によるチーム医療を支えるキーパーソンとしてますます重要視されています。登録に関しては、三年以上継続的にリウマチケアに従事し、講義、セミナー、演習など、その他の必須条件を満たした看護師のみに認められています。

西村 はじめは自分で注射を打つことに抵抗があるのも仕方ないですね。ただ今年、「ペン型タイプ」の注射が登場しました。見た目も注射っぽくなくて針が見えませんがこれなら怖くない(笑)。
奥田 加えてリウマチの患者さんは手の指が動きにくいので、押すだけのペン型は失敗も少なく、使い勝手がいいんです。使い方は、お腹や太ももに当ててカチッと押す…たったそれだけ。面倒な空気抜きの必要もありません。

奥田 私は2010年の第一回目に登録リウマチケア看護師の資格登録をしました。現在は、「はしもとじんクリニック」で患者さんの治療にあたっています。自己注射をされている患者さんが、いつでも相談できるように「24時間携帯電話がつながるようにしていますから、困った時も心配ありません。安心して治療に専念していただけます。

西村 川崎医科大学附属病院でも各部署が連携して「予防」の観点から新しい取り組みを進めているところです。L100読者の方には不安を解消する上でも、とりあえず検診をお奨めしたいですね。専門のドクターや看護師など、チームで対応しますから患者さんの生活全般を考慮した最適な治療を提案することができます。あと喫煙は絶対にNGです！
奥田 治療を続けた患者さんが「ハイヒールを履くのが夢だった」「水を手のひらですくって顔が洗えた」「洗濯物が干せるようになった」とうれしそうに話してくれるんです。聞いているこちらもうれしくなっています。看護師をしてよかったと思う瞬間です。
リウマチ治療の最前線で活躍するおふたり。患者さんを包み込むような優しい笑顔が印象的でした。



川崎医科大学附属病院では、バイオ製剤などの点滴注射は専任の医師、看護師、薬剤師が常駐する「通院治療センター」で行われる。ブースはパーティションで仕切られ、プライバシーに配慮していると感じた。窓から見える美しい眺望が素晴らしい！



「残念ながら、まだまだ多くのリウマチ患者さんが適切な治療を受けられていないのが現状です」と話すのはリウマチ・膠原病科の守田部長。バイオ製剤を使った最新治療をいち早く導入するなど、当院の先進医療をリードしている。

今回、ご協力いただいた病院は…



川崎医科大学附属病院
☎086-462-1111(代表)

リウマチや膠原病などの診断・治療を専門とする守田部長のチームには、7人の医師が所属している。最新の治療法や市民公開講座の案内、リウマチ相談外来(毎週火曜)など、リウマチ・膠原病に関する情報はホームページに掲載中。

http://www.kawasaki-m.ac.jp/rheumatology/
http://www.e-oishasanet/site/nishimura/

川崎医大 リウマチ

facebook